

## シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための連携協力に関する協定を締結調印

香川大学農学部は、徳島県三好市及び四国森林管理局徳島森林管理署との三者間で「シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための連携協力に関する協定」を2月23日(金)に締結しました。

本協定は、国指定重要有形民俗文化財「祖谷のかずら橋」及び「奥祖谷二重かずら橋」の架け替え資材であるシラクチカズラの資源確保とその活用を推進するために結ばれたものです。

農学部は、キウイフルーツの類縁種であるシラクチカズラ(サルナシ)の増殖や育成に関する専門的な知見を有する片岡郁雄教授(理事・副学長)を中心に、現地での調査や技術協力を行います。

今後、三者が連携・協力し、国有林を活用しながら、シラクチカズラの資源確保と果実等の活用に向けた取組を進め、重要な文化・観光資源であるかずら橋の保全や果実の特産化を通じて地域の活性化を支援します。



協定調印式 右端 片岡郁雄理事

## 高松市・NEC・STNet・香川大学・香川高専によるスマートシティ実証環境の構築・活用に向けた基本合意書を締結

2月27日(火)高松市役所において、香川大学は、高松市・NEC・STNet・香川大学・香川高専によるスマートシティ実証環境の構築・活用に向けた基本合意書を締結しました。

本合意書は、産学民官の連携を通じ、共通プラットフォームを活用し、官民データ

の収集・分析による地域課題の解決を目的とする「スマートシティたかまつ推進協議会」に香川大学も協力機関として参画した事をきっかけに、産学民官の多様なデータを分析するだけでなく、そのデータを活用できる人材育成に必要な事項を協議する事を目的に締結しました。



左から2番目 寛善行学長

## 「ともに学ぶプロジェクト」が「IAUD アワード 2017」で金賞を受賞

障がいの有無によらず共に学ぶためのICT利活用の産学官共創での取り組み「ともに学ぶプロジェクト」において、「IAUD アワード 2017」(主催:国際ユニヴァーサルデザイン協議会)の金賞を、香川県教育委員会、小豆島町教育委員会、富士通株式会社、富士通デザイン株式会社と共に受賞しました。表彰式は3月9日にドイツミュンヘンで行われ、本学からは教育学部坂井聡教授が出席しました。

「ともに学ぶプロジェクト」は、社会課題である共生社会の形成に向け文部科学省が推進する、児童生徒が障がいの有無にかかわらず共に学べるインクルーシブ教育システムの構築に向け、ICTを活用する香川大学と富士通の産学共同研究で、本学では教育学部坂井研究室・宮崎研究室を中心に

行われてきました。香川県教育委員会、小豆島町教育委員会の協力を得て、特別支援学校と小学校を合わせた計6校で、インクルーシブ教育システム構築の基礎となる環境整備や一人ひとりの障がい特性に応じた合理的配慮の提供に有効なICT利活用モデルの開発を狙いとした実証実験を実施しました。この中で、発達障がい等により感情表現や意思伝達に困難がある生徒が、コミュニケーションを支援するソフトの使用により感情表現とともに感情制御が可能となり他の生徒と一緒に授業に参加することが可能となった事例や、上肢の障がいのある生徒がタブレットPCを活用することで書字の困難を解決し、大学進学を目指すなどの効果を得ることができました。



表彰式(右から2番目教育学部坂井聡教授)



### けんびき

主に「肩こり」の意味で使われていますが、疲れてだるいときや少し体調が優れないときなどにも「私、けんびきなんよ。(私、体調が優れないんです)」という風に使われます。また口内炎ができたときには、「けんびきができた。」と言ったりします。読者の皆さんの中には、勉強の疲れで、「けんびき」になっている方もいらっしゃると思います。どうぞご自愛ください。

発行: 香川大学広報室  
soumkot@jim.aokagawa-u.ac.jp

香川大学ホームページ  
https://www.kagawa-u.ac.jp/



## 副学長閑話

### 趣味が高じて・・・

東京・上野のお山の南端に不思議な「池」がある。漢文の返り点を付ける練習になりそうな名称の「不忍池」(しのばずのいけ)である。読み方も不思議であるが、不思議な力が私に講義や研究をサポートし、群生した蓮や「何を食べたらこんなに成長するんだ」と思うような野鯉をぼんやり眺めることもしばしばであった。そんな風景を目の当たりにしながら、ある時、「池の水はどこから来ているんだろう?」と思い、調べてみることにした。

現在、上野のお山がある上野台と東京大学等がある本郷台の間の谷間には不忍通りと言う道路があるが、実は、縄文時代くらいまでは川が流れており、上野台や本郷台の東側は海であった。その後、縄文海退が起こり、現在の東京の下町に当たる部分が陸となって現れた。低地であった不忍池付近には、この川からの流入で池ができたらしい。自然が為せる業にも驚いたが、さらに驚いたのは、大正時代まで池には川が流れこんでいたものの、その後川は暗渠となり、現在の水源は、若干の自然湧出地下水はあるものの、その大半は近接する京成電鉄京成上野駅地下ホームとJR上野駅新幹線地下ホームからの湧出地下水の

香川大学副学長(情報・危機管理・学術・特命担当) 吉田秀典

人工的な汲み上げ放流で補っている。夏目漱石の著書「三四郎」に、暗渠化される前の川の描写があるので、興味のある方は読まれたい。

地形は、上述したような自然の力だけでなく、人間の力によって手が加えられることも多々あるが、香東川も然りである。江戸時代の初頭までは、現在の高松市香川町大野あたりで2つに分かれ、分流は現在の水路、本流は一宮から紫雲山の麓を通り、高松城の西側付近で海に注いでいた。当時の本流は、堆積土砂で川底が浅くなり、雨の度に洪水を起こしていたため、当時の分流を本流に切り替えた。現在も、高松市立桜町中学あたりは地下水位が高く、以前はティッシュ工場などもあり、豊富な地下水を利用していた。香川は湯水県であるが、意外にも地下水は豊富である。

青年の地形や川に対する興味と好奇心は、やがてそれらと強く関わる職業に繋がったわけで、趣味が高じて・・・というのは、まさにこのことだろうか。



## 香大サークル紹介



### 写真部

私たち写真部は、あんまり写真に興味なくてスマホでしか撮ったことない!という初心者から、一眼レフでパシパシ撮ってきました!という経験者まで幅広い部員たちが仲良く活動をしています。1年生は学祭で出展する写真を、自分でフィルムから暗室で現像することもできます。お気軽に部室に訪ねて来てください。お待ちしています!

■活動場所: サークルBOX 1階



### 剣道部

私たち香川大学剣道部は、男女合わせて27名で活動しています。師範である山神先生(八段)をはじめとする先生方のご指導のもと、経験者・初心者問わず日々の稽古に励んでいます。部員同士仲が良く、稽古中は真剣に、稽古が終われば和気藹々とした雰囲気です。学部も出身も様々ですが、それぞれが自分自身の剣道を追求しています。私たちと一緒に中四国制覇を目指して剣道しませんか?見学等、道場でお待ちしております!!

■活動場所: 武道場2階



### 医学部 軟式

部員には初心者も多く、経験者に教わりながら年2回のリーグ戦を目標に練習しています。試合に勝つために一生懸命練習していますが、他の部活と掛け持ちしている人も多く、気軽に楽しく野球ができる部活でもあります。練習や試合以外にも甲子園観戦やお花見、バーベキューなど季節ごとにイベントも行っています。部員でなくても練習に参加できるので、野球に興味のある人はぜひ野球場に来てください!